

2年 組 番 氏名

◎オリエント世界の風土と人々

①オリエントの自然条件

オリエント(「日ののぼるところ」)…古代ローマの人々からみた「東方」

→少雨・高温→岩山や砂漠などの乾燥地帯が多い

ティグリス川・ユーフラテス川流域の()

ナイル川流域の()

→定期的な川の増水を利用した灌漑農業→高度な文明が成立

②オリエント社会の特色

メソポタミア…()語系・インド=ヨーロッパ語系の人々が抗争をくりかえす

エジプト…エジプト語系の人々が長期間安定した文明を築く

両文明…大規模な治水・灌漑の必要→統率する王の()政治が成立

◎シュメール人の都市国家(メソポタミア南部)

①紀元前2700年ころまでに()人がウル・ウルクなど都市国家を形成

→農業や交易で富を集め、たがいに争う

都市国家…周囲を城壁でかこみ、都市の神を祀る壮大な()・王宮を造営

→王を中心に神官・役人・戦士が政治や経済・軍事の実権掌握 → 階級社会が成立

◎メソポタミアの統一と周辺地域の動向

①メソポタミアの統一

(3) 語系(7)人…前24世紀ころ、メソポタミア～シリアの都市国家

を征服→一時広大な領域国家をつくる

セム語系のアムル人…() (古巴ビロニア王国) を建国

→() 王: 前18世紀ころ、全メソポタミアを支配

〔運河や交易路を整備、法・慣習を集成して(9) 法典を定める

(9) 法典…「目には目を、歯には歯を」の(10)法の原則

→身分秩序を重んじる→オリエント世界に大きな影響をあたえる

② 周辺地域の動向

前2000年ころより中央アジアの周辺諸民族→オリエントに侵入・移住をくりかえす

インド=ヨーロッパ語系の(11) 人…はやくから鉄製の武器を使用

→ 前17世紀なかごろ(12) 高原に強大な王国を建国

(8)をほろぼし、シリアに進出して(13) とたたかう

メソポタミアに定住せず→その後侵入してきた諸民族の国々が並立

③ メソポタミアの文化

(14) 文字…(5)人がつくり、粘土板に刻まれる

→言語のことなる多くの民族のあいだで使用

(15) 曆・週七日制、時を刻む単位となった六十進法→実用的な学問が発達

◎ エジプトの統一国家

① エジプトの統一と王朝の交代

「エジプトはナイルのたまもの」…古代ギリシアの歴史家(16) のことば

→ナイル川の定期的な増水を利用し豊かな農耕生活が営まれる

前3000年ころ、生ける神(17) が農民を支配する統一国家が形成

約30の王朝

- 古王国時代…巨大な(18) : 権力の大きさを示す
- 中王国時代(都テーベ)…末期に遊牧民(19) が侵入し混乱
- 新王国…(19)を追い出す→(20) にまで支配を拡大

(21) …前14世紀、(22) の一神教を強制、

イクナートンと名乗り、首都をアマルナに移す(首都テーベのアメン神殿の神官団の政治への介入を嫌ったためといわれる)→改革は王の死により一代限りでおわる

② 社会と宗教・文化

宗教…太陽神ラーを中心とする多神教→魂の不滅・永遠の命を信じる

→(23)、**「死者の書」**の製作

文字…(24) 文字(ヒエログリフ): 碑文や墓室・石棺 パピルス

→(25) : フランス人シャンポリオンの解読

測地術…ギリシアの幾何学のもとになる

(26) 曆…1年を365日→ローマで採用: 現在広く使われている曆のもととなる

*シリウス(おおいぬ座)が夜明け直前に出現するようになると、ナイル川の増水がはじまる